

## 序

進行性筋ジストロフィー症は古い過去と新しい歴史を有する宿命的疾患である。周知の通り、本疾患研究の過去は古い敗北の記録によって綴られていたが、近年敢えてこれに挑戦し、点滴岩を穿つにも似た不屈の努力をもってアプローチせんとする新しい歴史が展開されたことは頼もしい限りである。この動きは近々十数年来のことであるが、本研究班の活動もそのうちのひとつとみなしてよい。本症はもともと原因は不明、治療法も未定ということであってみれば、自らの努力によってその解決に取り組むよりほかはない。こうして、国立療養所の筋ジストロフィー患者収容の全施設と関連の大学が相協力して丸となり、科学的態度をもって「病氣」の解明に努めると共に、医療人としての全人的立場より専ら「病人」としてこれを取り扱い、如何にして適切に治療しこれに生き甲斐を与えるかに心を砕いてきた。研究班発足以来の地味な、そして不断の精進は徐々に実を結び、その一次的効果としては宿命的な難病と目されていた本症にもある程度寿命延長の可能性があることを明かにしたし、また、二次的効果としては施設内における診療実績の質的、量的向上をもたらすことにもなった。これは厚生研究として患者の福祉に資する面も少なくなかったことを証するものであって心ひそかに喜びとしている次第である。将来はこの経験を生かし、さらに医療体制作りの方向にも歩を進めるべきことを示唆しているようにも思える。

ともかく、本年度は厚生省の心身障害研究として第2次3年継続の最終年にあたり、本年度をもってこの研究体制には一応の終止符が打たれることになった。ここに本年度の成果をとりまとめ報告する次第であるが、各部会研究ならびに共同研究の内容は、関係者それぞれの努力の結晶であり、これが有終の美にふさわしいものであったことに歓びを禁じ得ない。

本研究の遂行にあたり、厚生省当局ならびに日本筋ジストロフィー協会から賜わった御助言、御支援に深甚の謝意を表す。さらにまた、この間、惜しくも夭折された患者の方々に対し哀悼の誠を捧げ、向後の努力を誓う次第である。

班 長 山 田 憲 吾

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

序

進行性筋ジストロフィー症は古い過去と新しい歴史を有する宿命的疾患である。周知の通り、本疾患研究の過去は古い敗北の記録によって綴られていたが、近年敢えてこれに挑戦し、点滴岩を穿つにも似た不屈の努力をもってアプローチせんとする新しい歴史が展開されたことは頼もしい限りである。この動きは近々十数年来のことであるが、本研究班の活動もそのうちのひとつとみなしてよい。本症はもともと原因は不明、治療法も未定ということであってみれば、自らの努力によってその解決に取り組むよりほかはない。